

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	272000332
法人名	有限会社大三
事業所名	グループホームよもぎた
所在地	東津軽郡蓬田村大字阿弥陀川字汐干116-1 (電話) 0174-31-3151
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(平成19年11月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年10月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	370 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	67 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	外ヶ浜町国民健康保険中央病院、グリーン歯科クリニック、斉藤内科小児科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「私たちは利用者が家族と共に暮らしているような生活環境をつくり『つかず、離れず、さしのべる手で信頼をわかちあう』という理念を掲げており、管理者始め職員全員が、利用者に温かい暮らしを送ってもらおうという姿勢で日々ケアサービスを提供している。

住民が散歩途中に気軽に立ち寄ってくれたり、菜園の雑草刈りを手伝ってもらう等の交流を通じて住民とのコミュニケーションを図るほか、地域の行事や地下道のごみ拾いに参加し、地域との関わりを深めている。

利用者一人ひとりの生活歴やペース、意向等を大切にしており、献立には好きなメニューを取り入れたり、トランプ等の楽しみごとや調理等の役割を促すなど、利用者が楽しく生き生きと生活できるようなケアを心がけている。

管理者及び職員は身体拘束について理解しており、拘束は行われていない。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、理由等を記録したり、家族の同意を得る体制となっている。

【特に改善が求められる点】

大まかな研修計画は作成しているが、全職員が平均的に外部研修を受講できるよう、これまでの研修傾向等を把握した上で年間の研修計画を作成してはどうか。また、外部研修の内容を全職員に詳細に伝えるために、報告書を基に伝達研修を行う等の取り組みにも期待したい。

夜間を想定した予告なしの避難訓練を行う等の取り組みが行われているが、災害時に備えて数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。

職員が栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成しているが、保健所や医療機関等の協力を得るなど、定期的に栄養士等の専門家から助言をもらえる体制を作ってはどうか。

感染症に関するマニュアルが作成されており、マニュアルの見直しや家族への情報提供等が行われているが、職員間での定期的な勉強会を行い、より理解を深めることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に主な改善課題は職員会議等で話し合っており、サービスの質の向上につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ミーティング等で評価のねらいや活用方法等を全職員に周知しており、自己評価を実施する際には全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは会議の意義等を十分に理解している。会議では利用者の状況や評価への取組み等を報告しており、メンバーから意見を出してもらっている。メンバーから出された意見等は職員会議で全職員に周知するとともに、取組みが必要な事項については検討し、実践している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や毎月の利用料支払い時、電話、郵便等で、利用者の暮らしぶりや健康状態等を家族に伝えている。面会時には家族が意見や要望、苦情等を出しやすい雰囲気を作ったり、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示して家族に周知する等の取組みを行っており、家族から要望等が出された時は速やかに対応する仕組みとなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方が散歩途中に立ち寄ってくれたり、菜園の雑草刈りや野菜づくりを手伝ってもらう等、住民とのコミュニケーションを図っている。また、地域の行事や地下道のゴミ拾いに参加するほか、地元の理・美容院を利用したり買い物に出かける等の取組みも行っている。踊りや保育園児の訪問等も受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者始め全職員は地域密着型サービスの役割や使命を認識しており、ミーティング時に唱和する等、全職員での共有化を図っている。また、「つかず、離れず、さしのべる手で、利用者、家族の意見や要望を大切にされた環境(家族のようなづくり)を心がけるなど、理念の実現に向けた取組みが行われている。</p> <p>職員は会議等を通じて虐待について理解を深めるとともに、ミーティングで日々のケアを常に確認して虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待を発見した場合の対応方法等に関する取組みが作成され、全職員に周知されている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、話し合いの場を十分に持ち、意向等の把握に努めている。また、入居後1~2週間は経過観察期間としており、個々の意向や状況等に応じたケアを提供できるよう調整している。</p> <p>職員は利用者と過ごす機会を持ち、一人ひとりの思いを共感し、理解するよう努めている。また、個々の得意分野を把握しており、おしぼりたたみや掃除、調理の準備、後片付け等は利用者の手伝ってもらう等、助けあひながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者や家族との日々の関わりを通して個々の希望や思いを把握するほか、職員の気づきを出し合って介護計画を作成している。計画は基本的に3~6ヶ月に1回の見直しを行い、状態変化等がある時は随時の見直しを行っている。</p> <p>重度化した場合の対応に係る指針や看取りに関する指針が整備されており、利用者や家族、医療機関との話し合いを行い、意思統一を図りながら対応する仕組みとなっている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、羞恥心や自尊心を傷つけないような対応を心がけている。また、個々のペースやその日の心身の状態に合わせたケアを提供するよう努めている。</p> <p>卓球やペットボトルボーリング等の楽しみごと、調理や後片付け等の役割を個々の生活歴等に応じて促すほか、利用者の希望を聞きながらドライブや買い物に出かけるなど、利用者が活き活きと暮らせるよう支援している。</p> <p>共用空間には家庭的な調度品が、居室にはテレビ等の馴染みの物が持ち込まれており、一人ひとりが居心地良く暮らせる空間となっている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、以前から地域での安心した暮らしを継続できるよう支援しており、地域密着型サービスの意義や役割については十分理解している。「私たちは利用者が家族と共に暮らしているような生活環境をつくり『つかず、離れず、さしのべる手で信頼をわかちあう』という理念を掲げているが、地域密着型サービスを反映させたものとはなっていない。	○	地域との関わりを深めるために現在取り組んでいることを基に、地域密着型サービスの意義や役割を理念に盛り込んでいくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝夕のミーティングで唱和するなど、全職員での共有化を図っており、職員は理念の意味を理解し、日々のケアサービスに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方が散歩途中に立ち寄ってくれたり、菜園の雑草刈りや野菜づくりを手伝ってもらう等、住民とのコミュニケーションを図っている。また、地域の行事や地下道のゴミ拾いに参加するほか、地元の理・美容院を利用したり買い物に出かける等の取り組みも行っている。踊りや保育園児の訪問等も受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で評価のねらいや活用方法を全職員に周知しており、自己評価を実施する際には全員で取り組んでいる。また、前回の評価結果を基に改善のための話し合いを行っており、サービスの質の向上に努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは会議の意義等を十分に理解している。会議では利用者の状況や評価への取り組み状況等を報告しており、委員から意見等を出してもらっている。また、委員からの意見は職員会議で周知し、取り組みが必要な事項については検討し、実践している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政職員や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参画しており、ホームの現状を伝えている。また、困った事案等がある時は役場福祉課に出向いて相談するなど、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関して概ね理解しているが、職員には資料提供のみとなっているため、制度の概要が全職員に浸透するまでには至っていない。	○	権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修に職員を積極的に派遣したり、外部研修後の伝達研修を行う等、全職員が制度の概要を理解していくことに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は会議等を通じて虐待について理解を深めるとともに、虐待を未然に防ぐよう、ミーティング等で日々のケアを常に確認している。また、虐待を発見した場合の対応方法等に関する取り決めがあり、全職員に周知されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書を用いて利用者や家族に十分説明し、同意を得るほか、意見や疑問等を引き出すよう努めている。また、契約改訂時や退居時にも家族等に説明しており、退居時には退居先への情報提供を行う等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月の利用料支払い時、電話、郵便等により、暮らしぶりや職員の異動等を家族に報告している。金銭管理状況は個々の出納帳で管理しており、領収書を添付して定期的に家族に確認してもらっている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時等はいつでも苦情や意見を話せるような雰囲気作りを行っている。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示し、家族に周知しており、家族から要望等が出された時は速やかに対応している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職については、利用者への影響に配慮して最小限に抑えるよう努めている。異動等があった際は利用者には十分説明するとともに、職員間での詳細な引き継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の必要性を認識している。大まかな研修計画は作成しているが、研修内容の把握をしていないこともあり、職員全員が平均的に外部研修に参加するまでには至っていない。外部研修受講後は報告書は作成しているが、伝達研修を行う等、他の職員に内容を詳細に伝える取り組みは行われていない。	○	これまでの研修主催団体に問い合わせる等の取り組みを行った上で年間の研修計画を作成し、全職員に平均的に受講を促してはどうか。また、研修後は報告書を基に伝達研修を行う等の取り組みにも期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	インターネットを通じて他グループホームの取り組みを把握する等の取り組みは行われているが、他事業所と情報交換を行ったり交流を図る機会は設けられていない。	○	グループホーム協会に加入したり、地域包括支援センターの協力を得る等、他事業者との情報交換や交流を図り、得られた気づきを日々のケアに反映させていく体制作りに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、本人や家族との話し合いの場を十分に持ち、意向等の把握に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とは過ごす機会を持ち、一人ひとりの思いを共感し、理解するよう努めている。また、個々の得意分野を把握しており、おしぼりたたみや掃除、調理の準備、後片付け等は利用者には手伝ってもらおう等、助け合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者への声かけや関わりを通して一人ひとりの希望や思いを把握している。また、意思疎通が難しい利用者に対しては行動や表情から汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者の日々の暮らしぶりから一人ひとりの思いや希望を把握したり、面会時や電話で家族の要望等を聞くほか、職員間で話し合いを行っており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3～6ヶ月に1回の見直しとなっているほか、利用者の状態や家族の要望等に変化がある時は随時の見直しを行っている。また、見直しを行う時は再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や理美容院への外出支援等、利用者や家族の状況や要望に応じた柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保しており、いつでも相談できる体制となっている。受診結果は家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針や看取りに関する指針が整備されており、利用者や家族、医療機関との話し合いを行い、対応等に関する意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの羞恥心や自尊心を傷つけないように個々に合った話し方や対応を心がけている。また、管理者は職員のケアに常に注意を払い、改善等が必要な場合はミーティングで話し合いを行っている。職員は個人情報保護法について理解しており、個人情報に関する書類は訪問者等の目につかない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや訴えを最優先して業務にあたっており、買い物や散歩等、個々のその日の状態や要望等に合わせたケアを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、メニューには利用者の希望を取り入れている。また、個々の力量を活かしながら、利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けを行ったり、利用者と会話を交わしながら職員も一緒に食事を摂る等、食事を楽しめるような工夫が行われている。また、職員は食べこぼし等へのサポートも行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回となっているが、決められた日以外でも利用者の希望に合わせて対応している。また、現在は入浴を拒否する利用者はいないが、そのような利用者がある場合には無理強いしない方針となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望、力量を把握した上で、卓球やペットボトルボーリング、トランプ、花札、カラオケ等の楽しみごとや、調理や後片付け等の役割を促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット毎に外出したり、利用者の希望に合わせて買い物やドライブ等に随時出かけている。また、その日の利用者の状況や体調に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は身体拘束について理解しており、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は理由等を記録したり、家族の同意を得る体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできるよう、日中は玄関に鍵をかけていない。外出傾向を察知できるよう常に見守りを行っており、察知した時は付き添う等の支援を行っているが、無断外出時に警察署や消防署、近隣住民等から協力が得られるような働きかけを行うまでには至っていない。	○	無断外出時に備えて、警察署や消防署、近隣住民からの協力が得られるような働きかけを行ってはどうか。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施しており、夜間を想定した予告なしの訓練も行っている。災害時には警察署や消防署等からの協力が得られるよう働きかけを行っているが、災害時に備えた食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備えて、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー等に配慮して職員が献立を作成している。食事や水分の摂取量の把握や記録は行われているが、栄養士等の専門家から定期的助言を得る体制を整備するまでには至っていない。	○	保健所や医療機関の協力を得る等、定期的に栄養士等の専門家から献立に関する助言をもらえるような体制作りに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが作成されており、いつでも見られる場所に置いている。また、役場等から感染症に関する新しい情報が入った時などは、マニュアルの見直しを行っている。感染症に関する情報は家族等に周知しているが、職員間での勉強会を行う等、全職員が感染症に関する理解を深める取り組みを行うまでには至っていない。	○	内部研修のテーマとして取り上げる等、定期的に感染症に関する勉強会を開催し、全職員が理解を深めることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等の共用空間には、家庭的な調度品、季節の鉢植えや壁飾り等が置かれており、落ち着いた雰囲気となっている。また、職員の声やテレビ等の音量、日射しの強さは適切であり、快適な空間作りが行われている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや冷蔵庫、家具等の入居前から使用していた馴染みの物が持ちこまれており、利用者が安心してゆったり過ごせる空間となっている。		

※ は、重点項目。